

Nyonyum 23号

By JICA-VOLUNTEER DAISAKU TAKAGI

残り任期も僅かとなりました。「今見ている日常の光景が、非日常になってしまうのか」と寂しさを感じながらも、残された期間で何ができるか、未来に何を託すことができるのか、と自問自答しながら、活動に取り組んでいます。帰国まで残り1ヵ月に迫った2月の活動の様子を簡単に紹介します。



同僚と『出前授業』に行ってきました！！

2月25日～26日、配属先のスパイリエン高校の体育教員（カウンターパートのソク・ワンナルン先生、19号で紹介）と共に、協力隊員・八木さん（職種：小学校教育、2023年8月より派遣）が所属するコンポンチュナン州（任地スパイリエンからは約220*^{km}）のキリソヴァンナボン小学校に出向き、体育の『出前授業』に行ってきました。八木さんの日々の活動への課題意識をお聞きし、2年間活動を共にした同僚のワンナルン先生であれば、八木さんの活動や小学校の先生方の力になれるのではとないかと考え、実現に向けて動き出しました。「新しい体育(*)の普及に向けて、カンボジアの先生が、カンボジアの先生方を指導する」という理想の形が生まれ、感慨深い1日となりました。

*「新しい体育」は、小学校では2006年に導入されているが、日本のラジオ体操のような体操のみを体育として行っている学校も未だ多い。

<2/26 出前授業プログラム>

7:50～ 8:30 5年生A組 バスケットボール
 8:45～ 9:25 5年生B組 バスケットボール
 9:30～10:10 4年生A組 バレーボール
 10:15～11:00 先生方との研究協議

<八木さんの出前授業要望の背景>

「新しい体育」の指導経験がない教員への体育の授業に対する意識向上を図り、「新しい体育」の授業の質の向上を目指す。また、隊員とカウンターパート（現地教員）の授業における連携の仕方を学ぶ。



テンポよく授業が進められ、終始、子どもたちが笑顔で活発に活動する様子が見られました。あっという間の40分。授業後には、「次の時間は、どんな活動をやるんですか」と、ワクワクした表情で尋ねに来る子どもたちもいるほどでした。また同僚も、初対面の子もたちと共に授業を楽しみ、生き生きとした表情をしていました。



担任の先生方とも、積極的にコミュニケーションを取り、授業のポイントや授業の組み立て方等を説明する同僚（写真左）。研究協議の場では、「新しい体育」の年間計画や単元計画の立案方法を丁寧に説明していました。小学校の先生方も真剣です（写真右）。

「出前授業」を終えて～八木さんより

配属校の教職員にとって刺激的で学びが多い時間となりました。子どもたちの意欲的な姿勢やきらきらと輝く表情には思わず涙腺（るいせん）が緩み、私にとっても大変勉強になり、今後の授業を組み立てる上でのヒントが得られました。同じ時間を共有した全ての人にとって、有意義な時間になったことが嬉しかったです。

これから、「新しい体育」の充実に向けて、本校の教職員と二人三脚で日々試行錯誤していくのが楽しみです。念入りに準備を進めてくださったお二人には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました!!



「出前授業」を終えて・・・

『カンボジアに、「新しい体育」の普及に向けたリーダーの誕生！！』。これは、現地教員の「自立」や「持続可能性」という観点から、私が思い描いていたこの2年間の活動のゴールの一つでもありました。

同僚は、出前授業を引き受けた想いをこう話してくれました。「学校、州を超えて、新しい体育を一人でも多くの先生方に知ってもらい、体育の授業を通して、たくさん子どもたちの笑顔が見られるのが嬉しい」と。日々の学校の授業に加えて、副業(cafe 経営や家畜の世話)で多忙であるのにも関わらず、このような想いで初体験の出前授業を快く引き受け、また訪問先の子もたちや先生方のことを想いながら、入念に準備をしてくれた同僚には、本当に頭が下がる思いでした。出前授業後には、「今後、カンボジアの先生方や他の協力隊員が、スバイリエン高校に見学に来るのは、大歓迎」と、八木さんに伝える一コマもありました。体育教育に熱い情熱を持つ同僚、今後の活躍に期待大です！

NGO とは異なる立場で、現地の先生方の主導による「新しい体育」の普及に向けた取り組みのサポートを継続したい、という想いも新たに芽生えましたが、この想いは、後輩隊員や未来の隊員、そして同僚に託していきたいと思っています。

1人でも多くの子どもたちに体育・スポーツの面白さを！～近隣校での取り組み

配属先スバイリエン高校での活動の他、「一人でも多くの子どもたちに体育・スポーツの面白さを、先生たちには、体育の価値を伝えたい」との思いで、スバイリエン高校での授業の合間を縫って、近隣校でも体育の授業・スポーツ指導の協力・支援を行っています(20号でも紹介)。

サイハヌーフンセン小学校(市内)での授業サポート (児童数：約1300名)



週1回、小学校5年生の授業をサポート。指導経験がない種目のサポートや子どもたちがより楽しくかつ活発になる活動の仕方についての提案を行っています。

ピートゥー小学校(市内)でのバレーボール指導 (児童数：606名)



週2回程度、小学校のスポーツ大会に向けての練習をサポート。主に、レシーブ練習を担当しました。惜しくも全国大会の出場は逃しました。

子どもたちは皆、いつも目をキラキラとか輝かせてスポーツを楽しんでいます！！

日本とのオンライン交流授業やワークショップも、目白押し！！

1月～2月にかけて、小学校2校(福井県美浜町美浜東小、北海道鹿追町鹿追小)、高校4校(札幌藻岩高校、札幌丘珠高校、長野県松本市懸ヶ丘高校、長野県伊那北高校)、一般向け1件(長野県伊那市)に、オンラインにて交流授業やワークショップを行いました。現地にいるからこそその強みを生かし、日本との交流を楽しませてもらっています。実施プログラムをいくつかを紹介します。

福井県美浜町美浜東小 オンライン学校散策・交流

小学校3年生、4年生を対象に、LINEビデオ電話を使用し、現地の小学校からライブ中継を行いました。学校の敷地を散策しながら、建物や教室、売店などを紹介。また休み時間中の子どもたちとの交流も行いました。日本からは、「好きなスポーツは何ですか?」「好きな教科は何ですか?」などの質問がありました。カンボジアの子どもたちの多くが、好きな教科は「算数」と答えていたのには、驚きの声が上がっていました。

日本の子どもたちは、テレビにくぎ付けになるほど、日本の学校との違いや同じに興味や疑問を持ち、また国を超えた同学年との交流を楽しんでいたようです。



長野県伊那市 「見えない世界のトビラをひらく」

協力隊活動の経験を踏まえて作成した「カンボジアの教育の未来を考える」をテーマとしたワークショップ。

1. 写真から課題を発見する
2. 課題の背景を類推する
3. 支援策(カードを選ぶ)を考える
4. 現地の声を聴く
5. 現地の声も踏まえた支援の優先順位を考える

の流れで、協力隊活動の疑似体験をしてもらいました。

参加者は、中高生、教員、NGO関係者、一般の方々など、多世代多職種。「日本の普通と比べて物事を考えてしまう思考の癖があることに気付いた」などの感想がありました。

